



看取りって？  
大切な人が息を引き取る  
その「旅立ち」のとき、  
そばに寄りそい、  
感謝と別れを交わすこと

國森康弘著『いのちつぐ「みとりびと」』（農山漁村文化協会）第4巻「いのちのバトンを受けとって」より

## 國森康弘写真展

# いのちつぐ「みとりびと」

平成25年 10月5日(土)~10月27日(日)

◎開館時間：10時～18時 ◎休館日：月・火曜日 ◎入館料：無料

◎主催：愛荘町立愛知川びんてまりの館・愛知川図書館

### ◆関連行事◆

愛荘町五愛塾講座 第4回『いのちをつなぐ～在宅看取りの現場から～』

講師：國森康弘氏(写真家・ジャーナリスト)、花戸貴司氏(東近江市永源寺診療所長)

日時：10月17日(木) 14:00～ 場所：愛知川公民館

受講料：町内在住・在勤者 1,000円、町外2,000円(全講座5回分の受講料)

【五愛塾講座に関するお問合せ、お申込みは】

愛知川公民館(電話0749-42-5141)または、

愛荘町教育委員会生涯学習課(電話0749-37-8055)へ

愛荘町立 愛知川びんてまりの館  
愛知川図書館

滋賀県愛知郡愛荘町市1673 TEL(0749)42-4114

### 【交通のご案内】

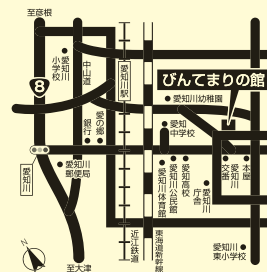
●お車で 国道8号「愛知川」信号より東へ約5分

●電車で JR能登川駅からバス「市ヶ原」行乗車、「愛知川」駅下車徒歩7分、  
または、近江鉄道「愛知川駅」下車徒歩7分

(近江鉄道は、JR米原・彦根・近江八幡のいずれかの駅でお乗換えください)



第1巻「恋ちゃんをはじめでの看取り」より



## 國森康弘写真展

## いのちつぐ「みとりびと」

## いのちのバトンを受けとって

私たちの暮らす日本ではかつて、赤ちゃんが生まれる場所も、おじいちゃん、おばあちゃんが亡くなる場所も9割前後が自宅でした。「いのちのバトン」はそうして、生まれるときにお父さんの分もいっしょにお母さんから手渡され、亡くなるときに愛する人たちの手に受けつがれてきました。ずっと、ずっとむかしからバトンのリレーは続いてきたのです。

でも最近、それがむずかしくなっているのかもしれない。今では9割前後の人が病院など自宅の外で生まれ、そして亡くなっているのですから。私たちは、「生・老・病・死」という、決して避けられない、そして人生でもっとも大切なものを、生活から遠ざけてきたといえます。

この世にもしも「不老不死」の薬があったならと考えてみました。はじめは飛びついて欲しがるかもしれない。でも、やがて思う。「生きる意味ってなんだろう」「終わりのないいのちって、大事なのだろうか」。可憐な花ははかなく散ってしまうからこそみんながお花見をするように、人のいのちもいつか散るから美しくあろうと思うのではないのでしょうか。

この物語は、「いのちのバトン」を大切に受けつぎ、しっかりと手渡していったおばあちゃんやおじいちゃんたちを主人公にしました。私たちのいのちは、ずっと昔から続いてきたバトンリレーによってようやく生まれてきたこと、もし代々のご先祖さまのうち一人でもまったく別のタイミングで死んでしまっていたら今の自分は生まれてこなかったこと、その奇跡と神秘の積み重ねを知ってほしいのです。

いのちは限りあるものだけど、ご先祖さまが代々受け取り、自分たちも一生懸命たくわえてきた生き抜く力ー生命力ーと愛情というバトンは、私たちのなかにもやどり、そしていつか手渡していくべきものではないのでしょうか。

～國森康弘著『いのちつぐ「みとりびと」』第4巻 あとがき より



## 『いのちつぐ「みとりびと」(全4巻)』

写真・文 國森康弘

【農山漁村文化協会、2012年】

看取りや死を冷たい終末としてではなく、あたたかで次代に「いのちつぐ」ものとしてとらえて描いた写真絵本。第22回(2012年)「けんぶち絵本の里大賞」受賞。今回の写真展では本書に掲載された写真を中心に約60点を展示します。



写真はすべて『いのちつぐ「みとりびと」』より  
①第3巻「白衣をぬいだドクター花戸」  
②③④第4巻「いのちのバトンを受けとって」



## 國森 康弘(くにもり やすひろ)

写真家、ジャーナリスト。1974年生まれ。神戸新聞記者を経て、イラク戦争を機に独立、イラク、ソマリア、スーダン、ウガンダ、ケニア、カンボジアなどの紛争地や経済貧困地を回り、国内では、戦争体験者や野宿労働者、東日本大震災被災者などの取材を重ねてきた。近年では「あたたかで幸せな生死を伝えたい」と看取り・在宅医療・地域包括ケアの撮影・取材に力を入れ、滋賀・永源寺の花戸医師らに同行取材している。

2011年度上野彦馬賞、コニカミノルタ・フォトプレミオ2010などを受賞。著書に『家族を看取る』(平凡社)、『証言沖縄戦の日本兵』(岩波書店)、『子ども・平和・未来 21世紀の紛争』(岩崎書店、共著全5巻)、『3・11マルチダウン』(凱風社、共著)などがある。